

JCS NEWS

CONTENTS

第7回 JCC 開催報告	2 - 5
チェロの日 Promotion	6
ヤニグロ音楽祭レポート	7
メンバーズ	8
チェロ・サロン開催報告	
事務局からのお知らせ	
編集後記	

ジュニア・チェロ・キャンプ 開催報告



Cello Salon

チェロ・サロン

REPORT



Junior Cello Camp

第7回 ジュニア・チェロ・キャンプ



ご指導いただいた先生／参加者数

■ソロ演奏コース／9名

河野 文昭先生、堤 剛先生、堀 了介先生、

山崎 伸子先生、諸田 由里子先生（ピアニスト）

■アドバンスト・アンサンブルコース／19名

山本 裕康先生、大友 肇先生

■ビギナーズ・アンサンブルコース／10名

中島 顕先生

Photo : @ Takashi Fujimoto



令和5年9月17日(日)、18日(月・祝)に東京音楽大学中目黒・代官山キャンパス(東京都目黒区)にて、第7回ジュニア・チェロ・キャンプ(以下JCC)を開催いたしました。

今年は幸い天候にも恵まれ、皆さまのお力添えもあり、アンサンブルコースを含む全3コース実施することが叶いました。今なお全国的に新型コロナウイルス、加えてインフルエンザが流行を繰り返しておりますが、無事に予定していた参加者全員が集い、開催できたことは大変幸運なことでした。

JCC会期中は、初日にアカデミー、2日目にアカデミー、リハーサル、発表会を実施し、会終了後に同会場で1時間程度の懇親の時間を設けました。

今年も全国各地から38名の小・中学生にご参加頂きました。今回は東京音楽大学様にご協力いただき、同校中目黒・代官山キャンパスを初めて会場として使用させていただきました。ご協力に対し、深く御礼申し上げます。

初日午後のアンサンブル練習前には、堀了介先生、河野文昭先生によるサプライズ演奏が行われ、Halsey Stevens の《Five Duos for Two Cellos》を演奏頂きました。初日で緊張した面持ちだった子どもたちが、間近で聴く先生の演奏に、目を煌めかせ、表情が輝いていくのを感じました。

楽器の上達には試行錯誤し、精一杯の努力の結果と一人でも向き合う時間が必要ですが、日々の学校生活で周りの友達と共感できる機会はそれほど多くないのではないのでしょうか。今回のキャンプを通して音楽の表現を深め合う楽しさを共有できる仲間との出会いが、今後の練習の意欲、糧になればと強く願っております。

小中学生の皆さまは夢も目標も揺れ動く時期だと思いますが、この短くとも充実した時間、経験が未来の喜びに繋がり、第8回JCCで再びお目にかかれることを心よりお祈りしております。

VOICE

S-208 水谷 桜

長い間お世話になりました。小4の時からずっとソロ・コースで参加させていただけて感謝しありません。偉大な先生方に見ていただけた貴重な機会を設けていただけて、とても勉強になりました。また普段なかなか出会うことができない、全国各地にいるチェロの仲間と交流できて、とても楽しかったです。毎回先生方の前で演奏するのは緊張しましたが、先生方に褒めていただけたときはとても嬉しかったです。先生方の言葉は私の一生の宝物です。小学生の頃は、発表会が堂々と演奏する中学生が憧れで、今の自分はどうかかわりませんが、今後も堂々と、年上の人たちに負けない演奏をできるように頑張りたいと思います。今まで参加した中で、一度も楽しくなかったことはありません。それはスタッフの方のおかげだと思います。本当に感謝の気持ちでいっぱい입니다。今まで本当にありがとうございました。またどこかでお会いできれば嬉しいです！

参加者の声

●いつもは周りにチェロや音楽を志す友達がない環境ですが、チェロ・キャンプで周りからいっぱい刺激を受けて、先生方からのアドバイスもとても嬉しい時間でした。みんなと合奏する経験もほとんどないので、チェロが大勢集まるこんなに響きが素敵なんだと改めて感じました。

●コースに関係なく、周りが仲良くしているのを見て、皆が同じチェロという楽器を弾いているからこんなに絆が深まるんだな、と思いました。

●講師演奏を間近で見ることができ、先生方の息遣いも感じることができました。緩急に優れていて、自分もいつかこんな風に弾けるようになりたいと思いました。

●今回のチェロ・キャンプでは、昨年できたチェロをやっている友達と会えたり、新しくお友達になった人もいたのが嬉しいです。友達と会える機会は少ないけれど、チェロ・キャンプのような、チェロが大好きな人たちがいて、同じ夢のある人がいる中で大好きなチェロを演奏できて良かったです。

●閉会式で諸田先生をご紹介された際に「ピアノは伴奏ではなく共演者だ」という言葉が心に響きました。今後ソロで弾くことがあったら、そのような気持ちで弾こうと思います。

●今年はコロナ禍の規制が緩和されて行われた初めてのチェロ・キャンプだったので、昨年と

堤剛 先生より



△開講式▽

今日は多くの皆様にて「第7回ジュニア・チェロ・キャンプ」にご参加頂き、大変嬉しく、また、皆様

様のお元気そうな姿、希望に満ち溢れているお顔を拝見でき、非常に喜ばしく思います。皆様は、今後のチェロ界のみならず、音楽の世界、文化芸術全体を背負っていく立場にあるわけですので、私共も、何か皆様のために貢献したいと思っています。

会期中はできるだけ充実した時間を過ごして頂いて、発表の場や今後の練習の糧になることを願っています。今日、明日、頑張ってください。よいらいっしやいました！

△開講式▽

今回は大変多くの素晴らしいヤングチェリストにご参加頂き、チェロ協会として大変嬉しく思いましたし、チェロの将来が本当に明るく強く思いました。先程、白川専務理事からもあったように、子ども達の成長は、ご家族の方のサポートが非常に大きいと思います。実は私自身も親から「練習をしなさい」と言われて逃げ回っていたので、大きなことは言えませんが、やはり上手になるには、練習は必須ですね。

また、今回は素晴らしい講師の皆様にご指導を頂き、本当にありがとうございました。そして、スタッフの皆様、ボランティアの皆様にも深く御礼申し上げます。

発表会のアドバンストコースの皆様によるゴルターマンの《レリジオーン》を聴いて涙が出てしまいました。改めて、チェロの音は素晴らしいと思いましたし、心が洗われるような気がいたしました。《レリジオーン》という曲名は、もちろん宗教的な意味もありますが、やはり「何かを極める」という意味があります。「何かを捧げる」「自分を捧げる」「自分が求めているものに打ち込む」、その意味合いは大変幅が広いのですが、各々、このような気持ちを持って、努力し、日々精進して生きていってほしいと

願っています。また、会期中に皆様がとても仲良くなっている様子が伝わってきました。そのようなことをきっかけに、世の中がもっともっと良くなっていくと思えました。2日間、本当にありがとうございました。

山崎 伸子 先生より



△開講式▽

今回も全国からお越し下さっています。ここに集まることによって上手な方に刺激をもらったり、同年代で合奏することによって、チェロのアンサンブルの素晴らしさを学んだり、友人を作ったりというのを、今回2日間、沢山して頂きたいと思っています。楽しく元気に、安全を第一に、ご参加頂けたらと思っています。

△開講式▽

ジュニア・チェロ・キャンプは最初の頃から企画等に携わっていますが、何が一番大変かという、講師の時間に講師の中で最後に「話す」ということです。堤先生が素晴らしいお言葉、堀先生が齋藤先生のこと、山本先生が冗談を含めたお話、中島先生はやはり小さい子ども達を何年も教えていらっしやるので、色んなことを幅広くお話し下さり・・・私ははつきり申し上げると話すことがありません。皆さんに楽しく参加頂いて、無事に帰って頂く、これに尽きます。

あとの時間は、子ども達に直接聞いてみます。

「今回、楽しかった人は手を挙げて下さい。」（ほぼ全員が挙手）皆さん楽しかったみたいですね。（一同拍手）「お友達ができた子達は？」（8割の方が挙手）お友達ができなかった子も中にはいるかな。でもできた子も沢山いらっしやいますね。お食事をする時や発表会前に本当に楽しく話していたので、私もとても楽しかったです。では最後に「来年も来たいと思う人！」（大半が挙手。年齢制限で挙手できない方もいる）いいですね！では来年もぜひ来てください。

今日中島先生が仰ったことと重複しますが、

発表会プログラム

ソロの部

F.J.ハイドン：チェロ協奏曲 第1番 第1楽章	小6（東京都）
D.カバレフスキー：チェロ協奏曲 第1番 第1楽章	小5（東京都）
C.サン＝サーンス：チェロ協奏曲 第1番 第3楽章	中1（東京都）
G.カサド：無伴奏チェロ組曲より 第1、2楽章	中1（東京都）
D.ポッパー：ハンガリー狂詩曲	中1（福岡県）
F.フランクル：チェロソナタ 第1、2楽章	中2（大阪府）
ウェーバー：アダージョとロンド	中2（埼玉県）
G.カサド：無伴奏チェロ組曲より 第1楽章	中3（大阪府）
P.I.チャイコフスキー：ペッツォカブリチオーソ	中3（神奈川県）

アンサンブルの部

1. ジョルダニ：6つのデュオより2番の2
Starr：Skip to My Lou
ピギナズ・アンサンブルコース
小1（愛知県2名） 小2（東京都2名） 小3（東京都3名）
小5（神奈川県1名・埼玉県1名） 中1（鹿児島県1名）
2. ゴルターマン：レリジオーン
アドバンスト・アンサンブルコース
小1（大阪府1名） 小3（東京都1名・愛知県1名）
小4（東京都4名・石川県1名・神奈川県1名）
小5（京都府1名・新潟県1名・長野県1名） 小6（東京都2名）
中1（兵庫県1名） 中2（山梨県1名・京都府1名・大阪府1名・神奈川県1名）
3. ヘンデル：パッサカリア
合同（ソロ・アドバンスト・講師）アンサンブル
4. シューベルト：子守歌
全コース合同（講師）アンサンブル



演奏会はどういう風に成り立っているのか、先生方との関係や、仲間づくり、アンサンブルでの経験、また、スタッフの方々がどういうお仕事をなさっているか等、今回得られたことを糧に、また来年参加すると色々なことを学ぶことができます。ぜひまた来年もいらしてください。

違って昼食の時に話しかけたりなど、新しい友達をつくることでできて本当に楽しかったです。

●自分には他の人の良いところが分かって良かったです。また、他の先生の指導方法と指導内容を聞くのが楽しかったです。

保護者さまより

●アンサンブルを初めて経験しました。子供たちの演奏を聴いてあまりの素晴らしい音色に涙が出ました。小学三年生の男の子でチェロは好きですが、普段ふざけて練習も長時間できない息子が、真剣な表情で全行程のレッスンを受講し、楽しそうに過ごしていたので、本当に嬉しかったです。アンサンブルの素晴らしさがよくわかりました。来年もぜひ参加したいです。

●楽器の出し入れ、自分の場所を用意する事、他のお友達と会話する事、会場へ向かうまでの準備や体調管理、本番、全てがこれからの役に立つ事だったと思います。またこれからも長く、毎年一回の楽しみとして参加させて頂きたいと思っています。

中島 顕 先生より



△開講式▽

私はいつもビギナーズコースの担当ですが、毎年参加者の顔ぶれが変わり、去年参加した人の背が伸びて成長していたり、コースも異なっていたり等、そのような成長を嬉しく思っています。皆さんが楽しんでできるよう、私共も新鮮な気持ちで頑張りますので、よろしくお願いいたします。

△閉講式▽

私は第一回ジュニア・チェロ・キャンプから参加している経験から申し上げると、いつもビギナーズコースの方は、チェロ以外(座り方や喧しい等)に勉強することが沢山ありましたが、今年はお行儀が良かったことを褒めたいと思います。今回はチェロのお稽古がしっかりできて本当に良かったです。

チェロ協会ができたきっかけは、子どもたちに今回のチェロ・キャンプのような会を開き若手の育成に寄与する事と、それからプロとアマチュアの境をなくし、チェロを通しての交流を図ることを目的にするという事でした。実は、そういった協会は少ないのです。日本でもチェロとビオラとフルート、クラリネット……くらいかと。チェロの人たちは皆どこでも集まるのが好きで、本当に素晴らしいことだと思います。今回のスタッフの方々も(協会員なので)同じだと思います。本当にいつもありがとうございます。

ここにはチェロを勉強しにきたけれども、どのようにしたらコンサートができるのか、どのように準備をすれば良いのかということ、今回スタッフの方々に行って頂いて、皆さん分かってきたと思います。そのようなことが本当に大切です。

昔このような経験がありました。子どもたちがチェロの椅子というのは、既にステージに出ていると思込んで座ってしまいました。実際にはまだ椅子がなかったその子どもはひっくり返ってしまったのです。皆さん笑うかもしれませんが、私は笑えなかったです。椅子は歩いてはきません。今回そういった準備をしているところを見ることによって、普通の日常にはないことが、キャンプだと見ることができそうです。知らない間にそういった教育を受けているということは本当に大きいことだなと思います。

皆さんで、プロとアマチュアの境もなく、子どもたちと親と、スタッフの方々を通して、このようなことを勉強できるこの場というのは本当に思っている以上に貴重だと今回改めて思いました。

また来年もぜひよろしく願います。

山本 裕康 先生より



△開講式▽

今日は全国各地から、ようこそいらっしゃいました。このキャンプにて、堤先生や堀先生、河野先生、中島先生、山崎先生から私が教えてもらったことを皆さんに伝えていくことができればと思います。大友先生とは、学生時代アパートが隣同士だったこともあり、本当にいろいろな繋がっています。先ほど山崎先生が仰っていたように、友達を多く作っていくことも一つの良い機会だと思いますので、ぜひ2日間楽しんでいていただけたらと思います。

△閉講式▽

2日間どうもありがとうございました。まずはこの催しを支えてくださったスタッフの方々、ボランティアの方々、本当にありがとうございました。このキャンパスは一度迷い込むと2日間くらい出てこれないというのは大げさですが、それくらい教室移動などが難しいところを動線や、細かい準備を事前にくださって、ありがとうございます。

私は今回、アドバンスコースを担当させていただきました。先ほど堤先生からお褒めのお言葉をいただきましたが、皆さん本当に素晴らしいです。やはり、素晴らしい演奏ができるというのは、人と人とのコミュニケーションが取れる人たちだからこそというのがすごく印象として残りました。私が昨日、「指揮をした方がいいかな、しない方がいいかな」ということを聞いた時も、「この協会にお金があるんだつらつら指揮者呼んでほしい」と言われて笑ってしまいました(一同笑)。このような先生方でも手弁当で参加していらつしやるんです。今日のレッスンは終わる前に、「最後に何か、何でも聞いてください」、「質問があったらなんでも聞いてね」と言ったら、「お弁当の中身は何ですか」という質問をもらいましたが、私は知らなくて。やっぱりお肉が食べたいという生徒さんがいらしたから、「来年はじゃあ準備するね」という約束をしましたね。お弁当の話がずっと続いた後に、「最後の質問いいですか」と言って手を挙げた子が、「先生いつか今の時間はなんですか?」と。それが一番笑ってしまつて。未だにニヤニヤしてしまうのですけれども(笑)。

そのような楽しい話がレッスン中もたくさんできました。

アンサンブルをするということは、まずコミュニケーションがとれることだと思いますし、チェロを弾くということは言葉を喋るとか、歌をうたうといったことと同じだと思います。あの様に素晴らしい会話が次から次へと出てくる皆さんには、これからもっとチェロも饒舌になっていただきたい。また来年お会いできたと思います。本当にありがとうございます。

堀了介 先生より



△閉講式▽

この度もキャンプ参加の皆さんが、本当に楽しそうに演奏していることに感激致しました。父母の方々も聴いていただきありがとうございます。私が子どもの頃はチェロを習っている先輩は、未だ5人、6人ぐらしかおらず、齋藤秀雄先生の門下生同士ともあまり接触がないという状態でしたので、これだけの仲間が年に1度か2度も会えるという、今のこの環境はすごく羨ましいです。皆さんがとても自由で、楽しそうなのが何よりです。齋藤先生はとても厳しく、恐くてレッスンでは先生の前で弾くということだけで精一杯でした。また私もチェロはもちろん好きですが、練習するのは嫌いで、いかに練習しないで上手になるかということしか考えていません。

今回も参加者は全国各地からいらしていますが、ただのライバルではなく、良きお友達の中でのライバルとして、お互いに刺激しあい、もっと頑張りたいと思っています。参加者の皆さんが素晴らしい演奏をしてくれて、将来が楽しみだなと思っていますので、これからも努力を続けて下さい。来年も楽しみにしていますので、どうぞお元気で。また来年お会いしましょう。





修了証授与式



懇親会の様子



ピギナーズ・アンサンブルの演奏



全コース合同アンサンブルの演奏

いつも 真ん中に チェロ

チェロの日

Photo : © Takashi Fujimoto

Promotion

2024年第13回を迎える「チェロの日」。1月6日「チェロと仲良くなるコンサート」に出演される菊地知也さん、笹沼樹さん、7日「チェロでひとつになるコンサート」にマエストロとして出演される山本祐ノ介さんにコンサートの聴きどころや思い等を伺いました。7日は、第1部に第15回ビバホールチェロコンクール(2023年開催)に2位・3位入賞を果たした山本大さん、松蔭ひかりさんをお迎えし、第2部では「チェリストの集い」参加者による総勢60名から構成されるチェロ・オーケストラの演奏をお届けします。

演奏を拝聴した時の衝撃は記憶に残っています。初めてでも出来る楽器なのだと思いました！今回、皆さまに和谷さんをご紹介出来ます。大変嬉しく思います。和谷さんは素晴らしい話術をお持ちですが、時間が限られている為、それをご披露出来ないのが残念です。なかなか聴くチャンスが無い、ハーモニカとチェロのデュオをお楽しみ下さい。

チェロのデュオをご一緒する笹沼さんとは、霧島国際音楽祭で共にチェロアンサンブルなどを演奏しています。笹沼さんはソロやカルテットでも活動されていますが、オーケストラの首席奏者にも就任され、今まさに大活躍中、大忙しの中演奏をお引き頂きました。今後益々活躍が期待される、頼もしいチェリストです。世代も体格も違う2人ですが、世界が表現出来るのか、今からとても楽しみにしています。



R-003

菊地 知也

私はいつも「チェロの日」の企画を担当しておりますが、今回は演奏もさせて頂く事になりました。新春に相応しい、明るい雰囲気でお届けします。

ハーモニカの和谷泰扶さんとはもう20年以上ご一緒させて頂いておりますが、初めて演奏を拝聴した時の衝撃は記憶に残っています。「何でも出来る楽器」なのだと思いました！今回、皆さまに和谷さんをご紹介出来ます。大変嬉しく思います。和谷さんは素晴らしい話術をお持ちですが、時間が限られている為、それをご披露出来ないのが残念です。なかなか聴くチャンスが無い、ハーモニカとチェロのデュオをお楽しみ下さい。



R-618

笹沼 樹

毎年チェリストが集う「チェロの日」は、日本のチェロを愛する人々にとってかけがえのない日であることは間違いありません。今年はさらに新年に開催されるということで益々おめでたいイベントになります。

私の師匠である堤剛先生が理事長でいらしたものがきっかけで学生の時から協会のお仲間に加えて頂いたもので、特段何かで貢献できたことがありませんでした。で、今回演奏という形で参加し、微力ながら協会員として活動できることが嬉しいです。

そして、受講生として参加し始めてから13年間、霧島国際音楽祭で「同じ釜の飯を食べる」付き合いをして下さっている菊地知也先生とチェロデュオができることも非常に光栄なことです。チェロアンサンブルの際は、普段オーケストラでバイオリンが担当するような高音パートを担われることが多く、バイオリンに引けをとらない艶のある音をいつも間近で聴くことができるのは本当に勉強になります。第一部では素晴らしいギターのデュオもお届けします。ギタリストの秋田勇魚さんとは日本コロムビアでのCDデビューが同期であることが縁で、共演を重ねて参りました。感性豊かで、舞台でも毎回ライブならではのやりとりを果敢にし合える仲間です。

チェリストの、チェリストによる、チェリストのためのお祭りをみなさんで楽しみたいと思います。

From Cello Orchestra Maestro

R-260

山本 祐ノ介

1月6日(土)・7日(日)はチェロの日 Happy New Year バージョンで盛り上がりましょう。「チェロが好き、もっと弾きたい、もっと聞きたい！」あるいは「チェロってどんな楽器だ？」と言う人達も、みんな集まってチェロと共に正月をお祝いしたいと思います。年末に計画している日帰り合宿など、久しぶりに大勢でしっかりと練習ができるので、まずは定番のヴィラ＝ロボス《ブラジル風パッサ》で今までにない高いクオリティの演奏を目指します。(演奏に参加される方々、よくおさらいしておいてくださいね！)公式練習会の日程は以下の通りですので、プロの方たちも気軽にふらっと遊びに来ていただければとっても嬉しいです。

ほかに、坂本龍一さんの《Energy Flow》は追悼の気持ちを込めて。そして、スティーヴ・マックイーン出演の「大脱走」から《マーチ》、巨匠モリコーネの代表作と言っても良い《ニュー・シネマ・パラダイス》と映画音楽が続きます。

New Year と言えばヨハン・シュトラウスははずせません。ウィーン・フィル気分満々で《美しき青きドナウ》、《雷鳴と稲妻》をチェロオケで演奏したい！どういうことになるのでしょうか？ドキドキしながら編曲しているところです。

今回 New Year をお祝いしながらチェロの日ができるというのは、コロナからの復活を象徴している様にも感じます。チェロを媒介としてアマチュアもプロも関係なく交流を深められる時間を持てたら、と願っています。

公式練習会日程

日時 2023年12月10日(日) 10:00～18:30

※時間の変更の可能性があります。

会場 梅丘パークホール

曲目紹介

ヴィラ＝ロボス：ブラジル風パッサ 第1番
坂本龍一：Energy Flow
バーンスタイン：大脱走のマーチ

モリコーネ：ニュー・シネマ・パラダイス
J. シュトラウス：美しき青きドナウ
J. シュトラウス：雷鳴と稲妻、他

ヤニグロについて

アントニオ・ヤニグロ (Antonio Janigro) というチェリストをご存じだろうか。1918 年生まれだからフルニエより 12 歳年下ということになる。フルニエは 1986 年に 80 歳で亡くなる前年に草津音楽祭に来るほど奏者としての寿命が長かったし、日本に何度も演奏に来て広く知られているが、ヤニグロはチェリストとしてはその演奏活動期間が短く、我が国ではあまり知られていないかもしれない。

ヤニグロはイタリアのチェリスト、指揮者、教育者で、ミラノ音楽院を出た後、カザルスにも師事した。チェロ奏者としては、夭逝の天才ピアニストのリパッティ (Pf) と録音したベートーベンのチェロソナタやポツケリーニのチェロ協奏曲などの名録音を残した。指揮者としてはザグレブ室内合奏団を 1953 年に創設し世界的な弦楽合奏団としての地位を確立した。教育者としては現代に活躍するメネセス氏、プルネロ氏、ソリマ氏などをその門下として育てている。

彼はミラノ生まれだが、子どもの頃、親戚の居たモンタゴ村という、ローマから東に列車とバスで 3 時間のモリーゼ州 (イタリアで最も観光化されていない州) の州都カンポバッソから更にバスで 30 分の丘の上にある人口 1000 人に満たない村に毎夏、来ていたという。

私の母が LP レコードで毎日聴いていたのがヤニグロの弾くポツケリーニのチェロ協奏曲であり、「青い海を思わせる透き通った音色だな」と思ったのが自分がチェロを始めるきっかけにもなったので、私にとりヤニグロはとても思い入れのあるチェリストであった。

とある 2022 年の夏の日に旧知の音楽学教授から「ヤニグロって知ってる？」と聞かれたのが事の発端であった。彼女曰く、トルコ工科大学で美術史を教える知合いがイタリア人のご主人とヤニグロ音楽祭というものを始めたという。話を聞いてみると「メネセス氏が期間中ずっと滞在するほど、彼が大事に思う音楽祭であれば、これは自分の目と耳で確かめねば」ということで 7 泊 8 日参加することになったものである。

ヤニグロ音楽祭 2023 ハイライト

アントニオ・メネセス氏 (Vc) とイタリアを代表するピアニストの一人、ミケーレ・カンパネッラ氏 (Pf) との演奏会が音楽祭の白眉であった。プログラムはいきなりベートーヴェン チェロソナタ イ長調 Op69 から始まった。さりげなく、この大曲が弾き始められ、その演奏は大人の演奏とも言おうか、大きな絵柄をそのまま提示した感があった。その次にシューマン 民謡風の 5 つの小品 Op102、合せが進むにつれ音楽が更に生き生きとしてくる。最後がショスタコーヴィチ チェロソナタ Op40。特に 3 楽章は、演奏会場が村から離れた森の中の教会だったこともあり、深淵で瞑想的な名演だった。

またヤニグロが創設し手塩に育てたザグレブ・ソロイストがローマ時代の円形劇場で行われた演奏会に登場したのも印象深かった。というのもチェロ独奏者が、ヤニグロの遺した楽器を貸与さ

れている若手のオリバー・ハーバート氏であり、それはザグレブ・ソロイストがヤニグロと別れて以来、55 年ぶりのヤニグロのチェロ (グアダニーニ伝) との再会を記念する演奏会となったからである。プログラムにはかつてヤニグロが弾きぶりで共に弾いたクーブランやヴィヴァルディが並んだが、ヴィヴァルディで演奏されたのはヤニグロが好んで弾いたというヴァイオリン協奏曲 調和の靈感 Op3-9 ニ長調 RV230 だった。オリバー氏の演奏は端正で音が磨き抜かれており、ヤニグロのチェロを存分に鳴らして彫りの深い音楽を作り上げていた。



ヤニグロのチェロを見せるオリバー氏

他方、音楽会以外に音楽祭として力を入れているのがメネセス氏による教育プログラムであった。メネセス氏の弟子が十数名集まり、日本からも中木健二氏に師事する高校生の劉心語 (りゅうこころ) さんがマスタークラスに参加してメネセス氏から懇切丁寧な指導を受けただけでなく、ブラームス弦楽六重奏曲の演奏では 1 番チェロパートを任せられアンサンブルでも活躍していた。

個人的な音楽祭ハイライトその 1

～メネセス氏と語り合う

音楽祭会場に着いてすぐ言われたのが、今夕、メネセス氏が村に到着した時に主催者は不在なので冷えた白ワインで彼を歓待して欲しいとのこと。初対面なのにとびっくりはしたもののそこは「チェロ族」、世界的巨匠と向かい合わせでヤニグロの話しを聞ける絶好の機会となった。

メネセス氏曰く、音楽家としてのヤニグロは頭の中の音楽作りのイメージがとて素晴らしいのが特徴で、そのイメージに到達するための練習指導は厳しく、ザグレブ・ソロイスト団員からは恐れられていたという。チェロ奏者としては技巧がそれ程でもなかったのを練習で乗り越えた努力家だったともいう。ただ残念なことにチェロ奏者としては 1950～60 年代がピークで 70 年代に手の神経を痛めてからは、指揮者、教育者としての活動に専念せざるを得なかったと言っていた。晩年は技巧が落ちて演奏が思うようにいかない苛立ちでアルコール依存症になってしまったが、母国ブラジルから 16 歳でヤニグロを頼ってドイツに渡った自分にとっては父親のような存在だったと語っていた。

リパッティとヤニグロとの共演のベートーベン Vc ソナタ第 3 番第 1 楽章がお勧めだと YouTube



リパッティ (Pf) との録音 YouTube を見せるメネセス氏

を見せてくれたが、その演奏は音楽祭期間中、日が落ちる頃にモンタゴ村の放送で流されていて、それを聴きながら音楽祭の参加者がワインを飲んで語り合っていたのが映画のワンシーンのようであった。

個人的な音楽祭ハイライトその 2

～ヤニグロの楽器を試奏する

音楽祭の開催期間中、ずっと村に滞在していたのでヤニグロの息子とも知合いになった。その結果、彼が父の楽器を貸与しているオリバー氏とも親しくなった。そこで、日本から持参したシューマン「幻想小曲集」の楽譜を見せて、短い時間で良いからレッスンしてくれと頼むと快諾された。練習時間のすき間に軽くレッスンを受けてから「自分はチェロを持参していないのでそのチェロで弾いてみて良いか？」と問うてヤニグロの楽器を弾かせてもらうことが出来たのである。

但し、オリバー氏が弾くと高弦はシューマンの甘い香りがしてくる一方で低弦はとてつもなくパワフルなのに、自分が弾くと真の音が出ていない感じで、「お前みたいな素人になんて良い音なんて出してやらないぞ」という頑固親父のようだった。

まとめ

このように、あり得ないほど大きかった収穫として、世界のメネセス氏と親しくお話しする機会や、ヤニグロが弾いていた楽器を試奏する機会があった一方で、この村にはホテルもレストランもないため食事には苦労させられた。また演奏会が無料なのは有り難いが、会場が村から 4km ほど離れた教会で交通手段がないのも不便だった。このように個人旅行で参加をお勧めできる環境にはないので、行く場合はかなりの覚悟が必要だということだけは付言しておきたい。

以上



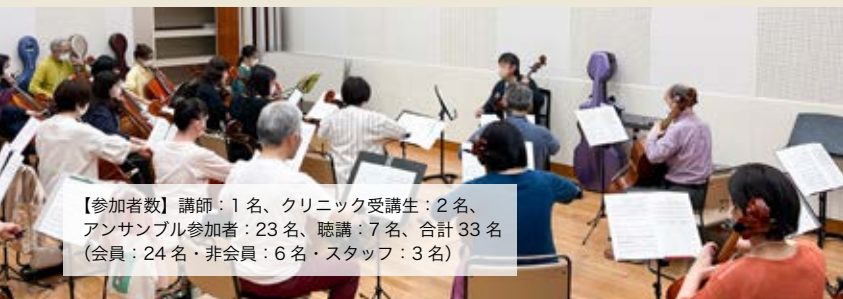
ヤニグロの楽器を試奏する著者

この度は、ヨハネス・ブラームス国際コンクール
チェロ部門で1位の獲得誠にありがとうございます。

北村さんにチェロ協会との
思い出を綴って頂きました。



両親に懇願して習い始めたチェロ。大きな夢の世界へと広がるきっかけが、チェロコンダクト・イン・ジャパン2011でした。幼稚園では先生も友達もチェロを知らない。音楽教室でも、チェロクラスの生徒は大人しかいませんでした。しかし、兵庫から東京への大旅行で辿り着いたサントリーホールはチェリストだらけ！子供のチェリストも大勢いて驚きました。日本チェロ協会は、幼稚園児（年長）だった私の入会を許可してくださり、あらゆるコンサートを目の前で聴くことができました。次々と演奏されるバッハや、リレーコンサート、チェロオーケストラなど、信じられないようなチェロの世界が広がっていました。さつきまで舞台上で素晴らしい演奏をしていたチェリストと話をすることができ、写真を一緒に撮ってもらいました。チェロを学ぶとこんなに楽しいことがある。こんなに素敵な仲間がいる。みんなと一緒に演奏したい！心からそう思いました。2年後、第1回ジュニア・チェロ・キャンプに参加しました。ソロ演奏コースで山崎先生のレッスンを受講し、小中学生のアンサンブルにも参加してチェロ友達もできました。チェロコンダクトから12年。今では、憧れの堤先生や山崎先生に師事することができ、何度もチェロの日に参加し、出会ったチェリストの方々と交流が続いています。私は、10月よりドイツのベルリン芸術大学へ進学して、イエンス・ペーター・マインツ先生に師事することとなりました。これからは精進して、世界中にチェロの魅力伝えて、私が惹きつけられたように、チェロで人々の心を繋げていけるようになりたいです。



【参加者数】講師：1名、クリニック受講生：2名、アンサンブル参加者：23名、聴講：7名、合計33名
（会員：24名・非会員：6名・スタッフ：3名）

R-388 花房 克磨

思いがけず今回の受講が叶いました。バッハ無伴奏チェロ組曲第5番アルマンドを題材に、次の3点を事前にお願しました。①自分の演奏の悪いところ気づく方法 ②拍子感の出し方 ③曲の強弱の付け方

短い受講時間にもかかわらず先生からは沢山のアドバイスをいただきました。要約すると、①自分が弾きたい理想の演奏を事前に大きく持って、それを目指して自分の演奏をチェックする。②柱となる音が経過的な音を区別して柱となる音以外の音はさらっと弾く。③曲の強弱の付け方は自由、1回目と2回目で違えて構わない、この曲をどう弾きたいか強くイメージすることが大事。

クリニックを通じて何度も言われたことは、曲の構成や響きに対する明確なイメージを事前につつとともに、A線をGに下げたメリットを最大限に生かして豊かな響きが出せるよう響きを磨くこと、でした。自分自身、イメージを持たず漫然と弾いていることに気づかされました。クリニックでの学びを糧に、今後一層練習に励んでいくつもりです。山本先生、事務局の皆様、本当にどうもありがとうございました。

Cello Salon

チェロ・サロン 開催報告

2023年4月1日(土)に、サントリーホールのリハーサル室で、山本裕康先生主宰の第46回チェロ・サロンを開催しました。
クリニックは、堀口省平さん(R-034)、花房克磨さん(R-388)が受講され、各々が抱える技術的な悩みや曲の解釈等についてアドバイスを頂きました。アンサンブルは、カザルス作曲の《東方の三賢人》、モーツァルト作曲の《ディベール・ティメント》より3曲を題材に、アンサンブルをする上で大切な次のこと(一部を紹介)を教えて頂きました。アンサンブルで指揮者がいない場合は、人と音を合わせる時は視覚も大事だが耳を頼りにする。フレージングを出すためにその方向性を定める。お互いのパートに耳を傾け和声を意識する。豊かな響きをつくるための強弱記号の捉え方と意識の持ち方等。今回は、新年度が始まって間もない日程にも関わらず、多くの方々に参加頂きました。主宰下さった山本裕康先生にこの場を借りて心より御礼を申し上げます。

事務局からのお知らせ

2023年度 主催イベントのご案内

■マスタークラス

日時：2023年11月13日(月)
会場：サントリーホール ブルーローズ
講師：アントニオ・メネセス氏
聴講申込締切：11月9日(木)

■チェロ・サロン

日時：2023年12月3日(日)
会場：サントリーホール リハーサル室
講師：高木 慶太氏
聴講申込締切：11月19日(日)

■第13回チェロの日

日時：2024年1月6日(土)、7日(日)
会場：サントリーホール ブルーローズ

編集後記

皆様いかがお過ごしでしょうか。この夏は本当に暑かったですね。

新型コロナウイルスの感染症法上の分類が「5類」に引き下げられました。この会報をご覧になり、雰囲気が変わったこと、伝わりましたでしょうか。ジュニア・チェロ・キャンプではマスクの着用品が個人の判断となり、徐々に懇親会までの全ての流れがもとの姿で実施されました。写真からもおわかりいただけますように子どもたちも笑顔が明るく、楽しそうな様子が見られて本当に嬉しかったです。皆様ともチェロの日などのイベントでお会いできることを楽しみにしております。

チェロ協会の公式サイトに情報を掲載できます

チェリストを探す

公演情報

チェロ協会の公式サイトでは、公演情報や会員の皆さまのチェリストとしてのプロフィールを無料で掲載しております。ぜひ情報をお寄せください。



一般財団法人 日本チェロ協会 (JCS NEWS) 第62号 2023年10月17日発行

発行 一般財団法人 日本チェロ協会
東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル19階 秘書 509号
電話 03-3505-1991 FAX 03-3582-1310 E-mail office@cello.or.jp

発行人 堤 剛
編集 日本チェロ協会事務局
編集協力 株式会社アイデアリズム